



鹿追町 ワークेशन



鹿追型ワークेशनによる 地域課題解決・企業との連携のきっかけづくり

2024年6月12日 第1回北海道型ワークेशन受入検討会会議
鹿追町企画課企画係長 迫田 明巳





本日は話すこと

1. 鹿追町が進める課題解決型ワーケーション「シカソン」とは？
2. ワーケーション実証事業開始の経緯【R3年度】
3. ワーケーションを開始して見えてきた課題【R3-R4年度】
4. R5年度の実証内容
5. ワーケーションを開始して得られた成果

1. 鹿追町が進める課題解決型ワークショップ「シカソン」とは？



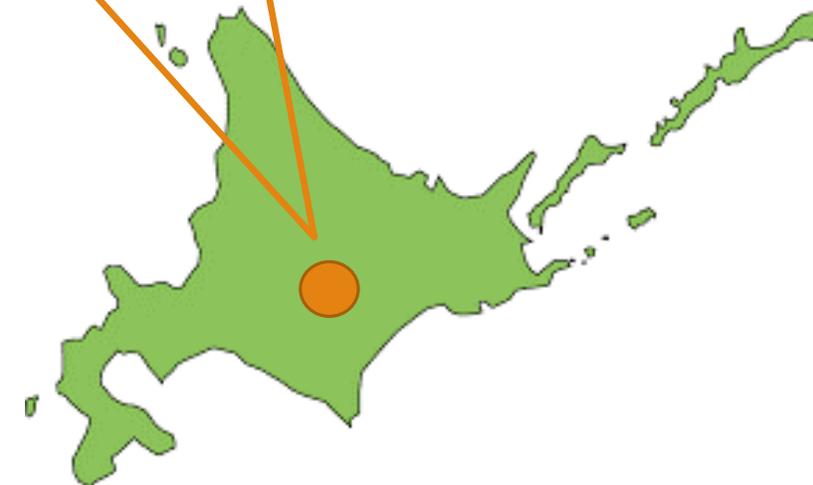
環境を学ぶ 未来を考える
鹿追町
鹿追型ワークショップ



- ゼロカーボンシティ宣言のまち（2021年3月）
環境省 第1回脱炭素先行地域（2022年4月）
- 日本ジオパークのまち
とち鹿追ジオパーク（2013年）
- 国立公園のまち
- SDGs推進のまち
- 過疎のまち

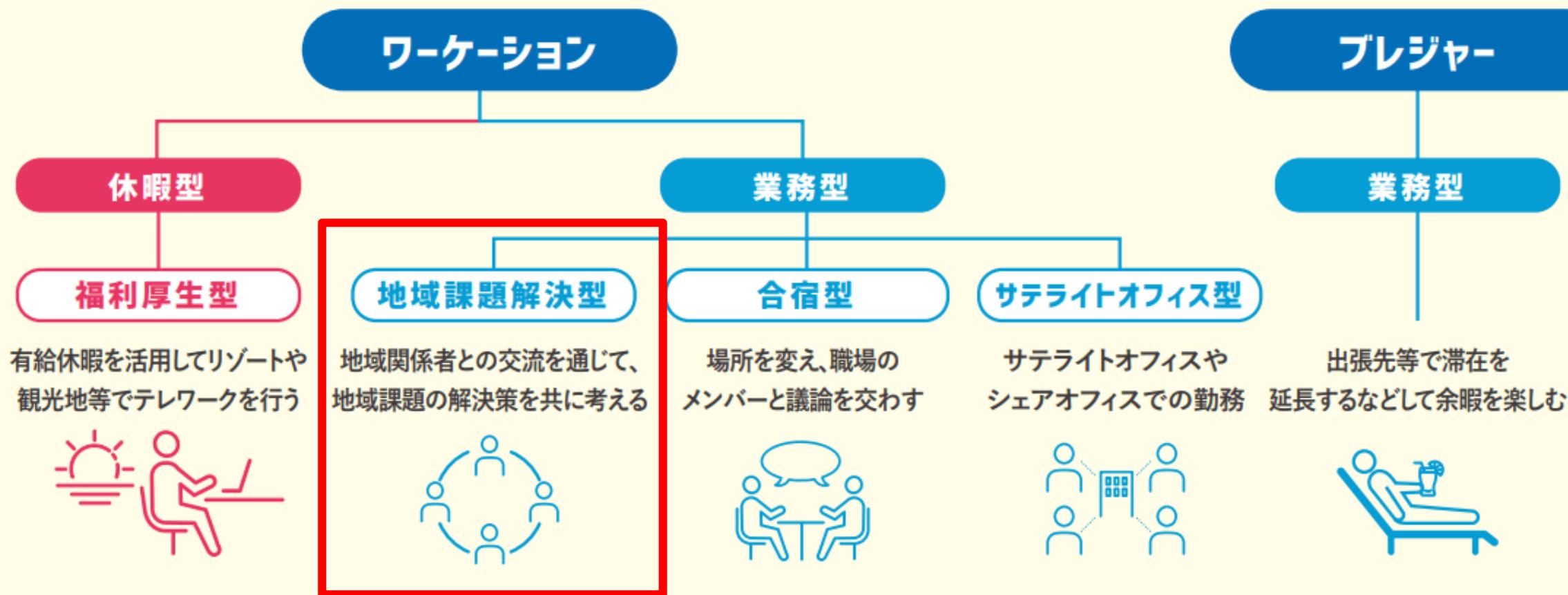
「鹿追（シカオイ）町」で、訪れた方と環境をテーマに、一緒にマラソンを走るかのように学び、考え、持続可能な未来（ゴール）を目指すショートステイプログラムです。

人口 5,266人（15歳未満 13.6%）
基幹産業：農業、観光
教育、国際交流も特徴的!!



1. 鹿追町が進める課題解決型ワーケーション「シカソン」とは？

実施形態(イメージ)



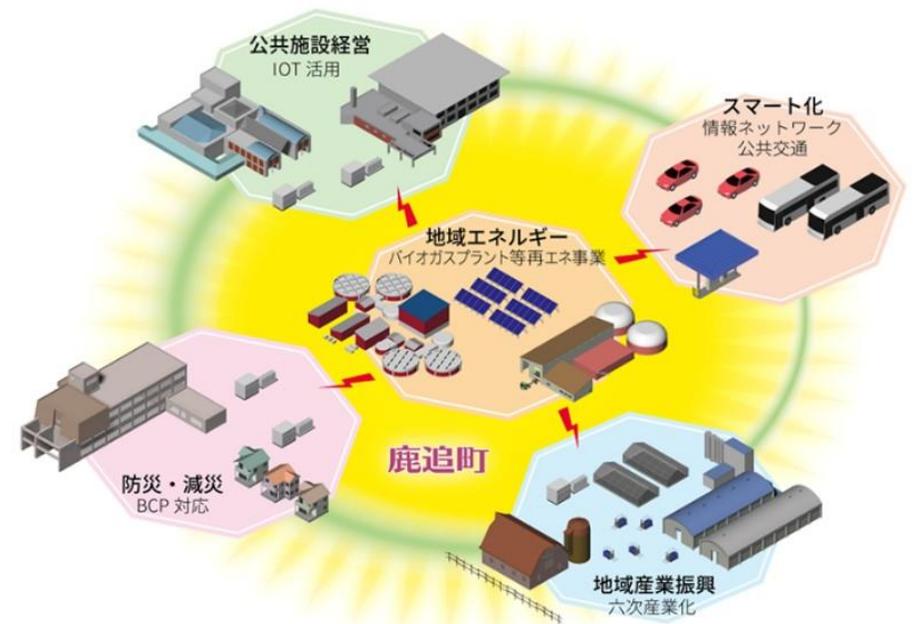
出典:観光庁「『新たな旅のスタイル』ワーケーション&ブレジャー(企業向けパンフレット)」より引用

2. ワークーション実証事業開始の経緯【R3年度】

観光庁「新たな旅のスタイル」促進事業申請・採択【4,000千円】

鹿島建設（株）との連携

- 家畜ふん尿由来水素を活用した水素サプライチェーン実証事業（平成27年度 地域連携・低炭素水素技術実証事業）
- 令和2年10月 地域スマートソサエティ構想調印（公民連携）
 - ①地域エネルギー供給事業
 - ②公共施設経営
 - ③防災、減災はBCP対策
 - ④ICTを利用したスマート化
 - ⑤地域産業振興



応募の経緯

- 令和元年度～ 北海道型ワークーション導入検討・実証事業（令和2年度～ 普及・展開事業）
- 令和2年12月 **「鹿追町が持続可能なまちへと進む提案」**について意見交換
コロナ禍における国内情勢、鹿追町の強み、鹿追町の課題を踏まえた鹿追町の「地域課題解決」への一歩を提案
- 企業と連携した環境整備・受入の推進
→目指す姿の一部：国立公園内ワークーションの推進、市街地コワーキングスペースの推進

応募の目的

- ① **コロナ禍で激減した観光客の回復・誘導、長期滞在を行うワークーション需要の取り込み**
- ② **環境分野における関係人口・交流人口の拡大、企業との連携による地域課題の解決**

「参加型」新モデル構築へ

鹿追町が実証実験



施設見学後、町内のホテルで地域の課題を話し合うワーケーション参加者

【鹿追】町は本年度、民間企業を軸にワーケーションの受け入れ態勢を整える実証実験に取り組む。地域参加型の新たなモデルを考案し、新規企業の獲得を目指す。第1弾として札幌のIT企業が2泊3日の日程で町内を訪れ、持続可能なまちづくりを学んだ。

実験は道観光振興機構の事業として実施。町内で旅行ガイドを行う社団法人「E n」に委託し、町全体で取り組むゼロカーボンシティ宣言、ジオパーク、国連の持続可能な開発目標(SDGs)推進のまちづくりなどをテーマにワーケーションで訪れた企業と町、町関係者、民間事業者が視察や交流を行う。

E nは受け入れやテーマ

設定、顧客開拓などを担当。観光地を巡る従来の「旅行型」ではなく、環境や地域経済、過疎といった地域が抱える問題を話し合い解決する「参加型」のビジネスモデルの構築を目指す。

初参加した札幌のIT企業は社員7人が7月11・13日にE nが企画した家畜ふん尿由来のバイオガス発電や然別湖に生息する特定外来種ウチタザリガニの駆除を見学。町関係者との学習会では水素で走る燃料電池車(FCEV)の活用やSDGsと行政との関わりなどに関心を示した。

道内のワーケーションに詳しい北海道二十世紀総合研究所(札幌)の佐藤公一は「旅行型のワーケーションはどこも同じで長続きしない。地域の課題解決に取り組む参加型が今後の主流になるのでは」と話している。(伊藤圭三)

鹿追と企業結ぶ ワーケーション

【鹿追】町外の企業が町内滞在中に地域の課題に挑戦する、鹿追独自のワーケーション「シカソン」が注目を集めている。町は東京と札幌のセミナーに職員を講師役で参加させるなど、ワーケーションの新たな魅力として道内外に発信し、「仕事と観光の両立を図る従来型ではなく、地域と企業を結ぶモデルにしたい」と意気込む。

(伊藤圭三)

環境や過疎…町の課題、ビジネスヒントに

町は、観光庁のモデル指定を受け、2021年度に大手ゼネコンの鹿島(東京)と独自のワーケーションスタイルを模索。3泊4日の日程で、然別湖のホテルに仕事を設け、環境への影響が懸念される特定外来生物ウチタザリガニの駆除や冬のイベント「しかりべつ湖コタン」のイグルー作りを行う旅を提案した。本年度は、札幌のIT企業が3日間滞在し、町が進めるゼロカーボンシティ宣言やジオパーク、国連の持続可能な

開発目標(SDGs)を生かしたまちづくりの様子を視察。日程の大半を町や民間企業などとの交流や学習会に費やし「環境や地域経済、過疎などの問題に触れ、ビジネスのヒントを得た」と好評だった。

町はこうした課題解決型のワーケーションを、アイデアとマラソンを掛け合わせた造語「アイデアソン」をヒントに「シカソン」と命名。「マラソンを走るように学び、考えたい」と狙いを説明する。町の取り組みに興味を示し

東京、札幌のセミナーで報告



た日本テレワーク協会は、4日に東京で開いた「デジタル田園都市」がテーマのセミナーへの出席を要請。町や長野県松本市など全国14の自治体や企業が集まる中、町企画課の担当者は、企業との関わりやワーケーションの将来性、シカソンの魅力などを紹介した。

と期待する。

(伊藤圭三)

地域貢献型ワーケーションの一環でザリガニ駆除に取り組む参加者たち=2021年10月、鹿追町



3. ワークーションを開始して見えてきた課題【R3-R4年度】

「シカソンサミット&セミナーinしかおい」の開催

これまでの課題を解決する策

- 開催時期を11月にすることで観光の**閑散期**を狙う（11月はWAJのワークーション月間でもある）
- 宿泊ホテルの**シングルユース問題**を解決
- あえて、相部屋にすることで交流を図るコンセプトも試してみてもどうか？

相部屋プランの追求

コテージなどへの展開も

企業のワークーション

今後の連携のスタート

旅行業のハードルをクリア

- **旅行業法**上で問題がないように着地型のイベントに！

地元の飲食店の利用促進
町民への発信！



ワークーションの普及

- 立科work tripでワークーションを推進し、鹿追町のアドバイザーでもある立科町の上前氏、渡邊氏等招へいし、参加企業に**ワークーションという働き方**を普及

持続可能なワークーション

- 内容を事前に固めてしまうことで**受入側の負担を軽減**
- 5社×各4名=20名のワークーションを対応するより、1社×20名で1回の方が**受入負担軽減、関係企業増加**
- 鹿追町をフィールドに企業同士の関係性構築

4. R5年度の取組内容

2023シカソンサミット&セミナーinしかおい

日程：2023年11月20日～22日

場所：鹿追町内

参加者：サミット12名（11社・12名・15泊）
セミナー35名（サミット参加者含む）

内容

- ・ゼロカーボンの取り組み視察
- ・とかち鹿追ジオパーク視察
- ・町内キーマンとのセッション
- ・シカソンセミナーinしかおい
- ・情報交換ワークショップ

参加者の声

- ・ **業種や専門、出自の全く違う人が一同に会する**ことで、今まで考えもしなかったアイデアが浮かびました。
- ・ 札幌、東京、長野と広く参加者が集まり、異業種間での交流を経て、自身も考えさせられることが非常に多かった。
- ・ **合宿型の研修を鹿追町でやってみたい！**
- ・ ワークーションを通して地域に根差して活動されている方や、鹿追町様の持続可能な取り組みについての興味が大きかった。
- ・ このイベントを通じてより**多様なアイデアを生み出すためには、もっと自社の他の社員にも参加してもらいたい。**
- ・ 記憶に残るために「体験」「人に会う」ことがとても重要なことを改めて感じる事ができた。

企業の人材育成・地方創生・新規ビジネス企画に「シカソン」

11/20-22

2023シカソンサミット

inしかおい

シカソンとは？
ゼロカーボンシティ宣言のまち（第1回脱炭素先行地域）、日本ジオパークのまち、国立公園のまち、SDGS推進のまち、過疎のまち「鹿追（シカオイ）町」を訪れた方とともに、環境をテーマに一緒にマラソンを走ることのように学び、考え、持続可能なゴールを目指すショートステイプログラムです。

セミナー

講師トークセッション

渡邊 岳志 氏
（一社）信州たてしな観光協会 / M認定コンシェルジュ
合宿型ワークーションで年間300人以上を立料の観光地に送客する公認ワークーションコンシェルジュ。会社に業務を通してやすいワークーションを提案。

「シカソン」育ての親

上前 知洋 氏
長野県立科町企画課地域振興係長
県職員から立料町職員となり、社会福祉系テレワーク事業や学生によるアイデアソン「タテシナソン」の企画を運営。テレワークの増加、アイデアソン「タテシナソン」は第5回目を迎える。

「シカソン」生みの親

柏尾 哲哉 氏
HOTEL NUPKA & 十勝シティデザイン（株）
首都圏と十勝を結ぶツアーの仕掛け人。年3回のツアーで100人を送客したこともある十勝愛される首都圏との橋渡し人。自身も2拠点を行き来する。

町内キーマンセッション

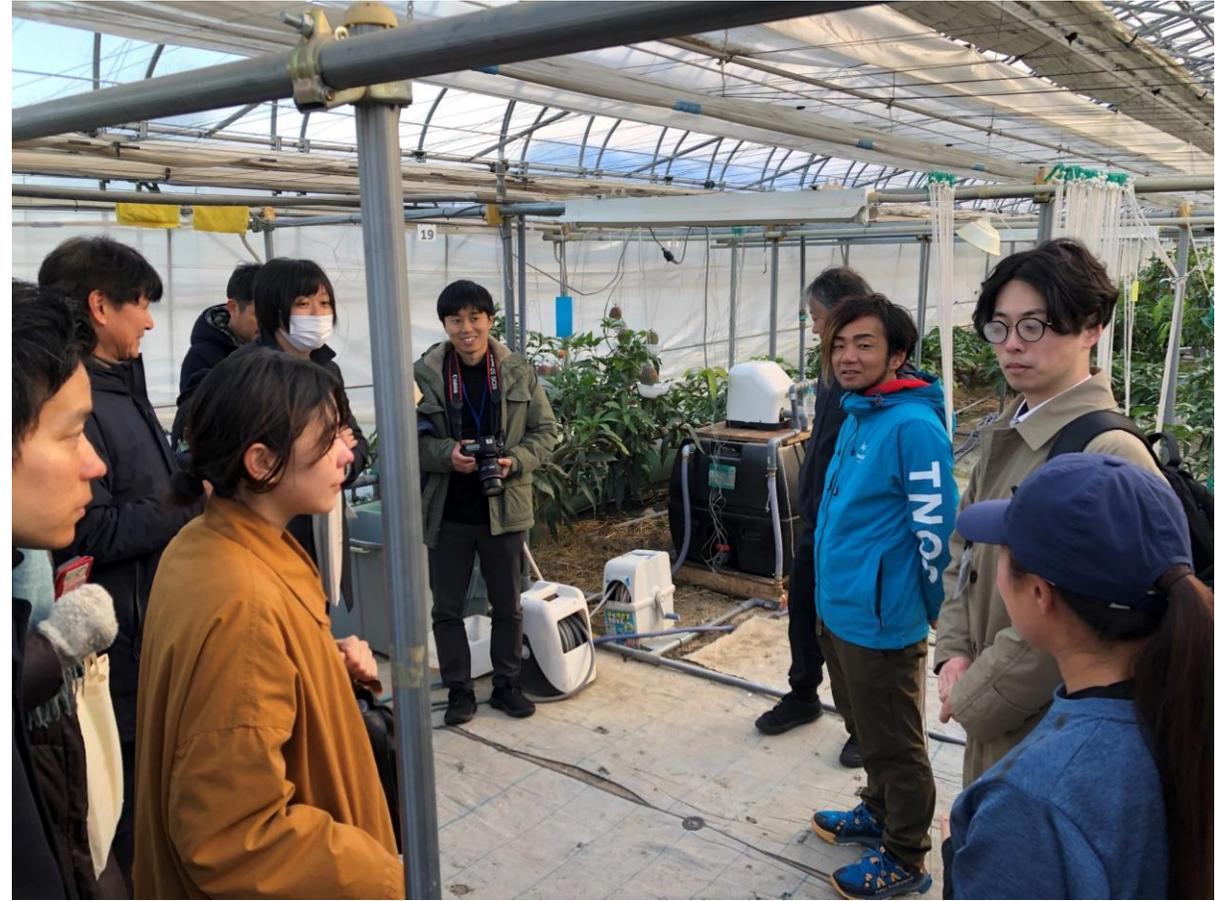
鹿追町長 喜井 知己
北海道鹿追高等学校長 依谷 俊彦
鹿追町観光協会会長 山岸 宏
とかち鹿追ジオパーク 金森 晶作
鹿追町自然体験留学センター 三反崎 順也
※2セッション 選択制

株式会社HBA & 鹿追町役場 クロストーク

シカソンレポート数2回目のIT企業(株)HBA担当者 と 鹿追町役場担当者との本音トーク。ワークーションを企業で選択するということ。

ワークーションを鹿追町で行うようになったわけ

4. R5年度の取組内容



4. R5年度の取組内容



先進地の関係者招きセミナー

【鹿追】まちの課題解決を組
み込んだワーケーションについて
考える「2023シカソンセ
ミナーinしかおい」（鹿追町
主催）が11月20、22日、町内で
開かれた。参加者は課題解決型
ワーケーションについて意見を
交わした。（大井基寛通信員）

鹿追 ワーケーションの聖地に



立科町の取り組みについて紹介する上前さん（左）と渡邊さん

来訪者との対話 重要性提起

カーボンの取り組みや、と
ち鹿追シオパークを視
察。21日は町民ホールでセ
ミナーが開かれ、事業者な
ど約40人が参加した。
セミナーは2部構成。1
部の講演では、課題解決型
ワーケーションの先進地、
長野県立科町企画課の上前
知洋係長が雇用創出型テレ
ワークなど地元での取り組み
を紹介。信州たてしな観光
協会の渡邊岳志さんが、地
域事業者との対話の重要性
などについて述べた。
オンラインで参加した十
勝シティデザイン（帯広）
の柏尾哲哉さんは、首都圏
と十勝をつなぐ人々と新
しい価値や事業を創造する
「リゾベーション」を提唱。
2部では、鹿追町内に複数
回ワーケーションで訪れて
いる札幌のIT企業、H B
Aの高野達経経営企画副本部
長と、鹿追町企画課の迫田
明日係長が対談し、ワーケ
ーションの参加側と受け入
れ側の目線で、課題などに
ついて意見を交わした。
迫田係長は「企業と一緒に
5年後、10年後につなが
る鹿追独自の方向を目指し
ていきたい」と話した。

ワーケーション可能性探る 鹿追で「シカソンサミット」

【鹿追】ゼロカーボンな
ど町の環境面への取り組み
に関心がある企業と地元が
交流する「2023シカソ
ンサミットinしかおい」
が20、22日、町内で行われ
た。21日のセミナーでは、
鹿追に滞在しながら仕事を
するワーケーションの可能
性や課題を話し合った。



鹿追でのワーケーションの
可能性と課題などを話し合
った「シカソンセミナー」

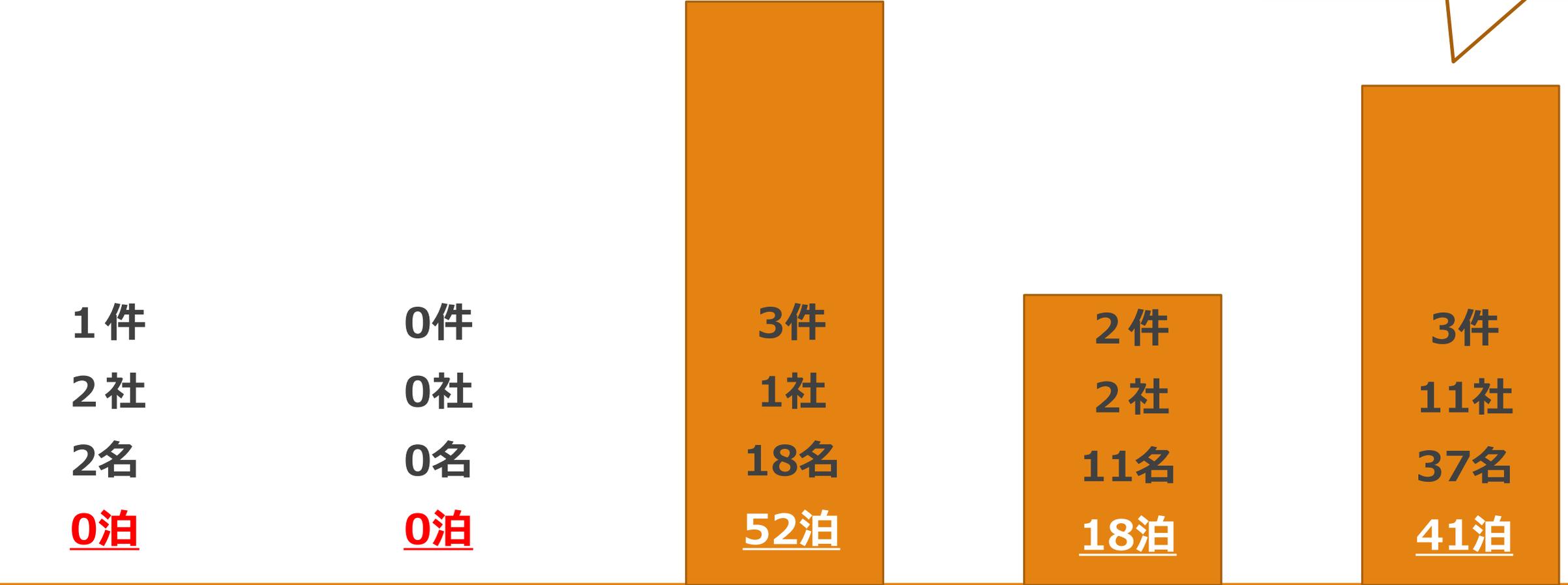
町民ホールでのセミナー
には約30人が参加した。第
1部は先進地・長野県立科
町の担当職員らが講師とな
り、「自然に恵まれ、環境
問題に取り組む鹿追は可能
性がある」などと期待を込
めた。

第2部は鹿追で2021
年度から毎年ワーケーショ
ンを実施しているシステム
開発道内大手のHBA（札
幌）の担当者が「新型コロ
ナで海外研修に行けなくな
り、代わりに鹿追でワーケ
ーションを始めた」と説明。
「参加者からも好評で、普
段エンドユーザーと接する
機会のないシステムエンジ
ニアの社員が生の声を聞け
て、人材確保面でも役立つ
ている」と話した。

（和田年正）

5. ワークーションを開始して得られた成果

2023シカソンサミット
inしかおい含む



R1

R2

R3

R4

R5

5. ワークーションを開始して得られた成果

R3年度 ワークーション実証業務 運営参画企業
地域活性化起業人：タウンセールス・プロモーション



R4～5年度 ワークーション参加企業【(株)HBA】
地域活性化起業人：自治体DX推進 → R6.5.13 包括連携協定



鹿追町、HBAと協定
DX推進や脱炭素で連携

【鹿追】鹿追町とIT企業HBA（本社札幌、白幡一雄代表取締役執行役員社長）は13日、脱炭素やDX推進を核とした地方創生、SDGs（持続可能な開発目標）の取り組み実現に向けた包括連携協定を締結した。

HBAは2023年度から地域活性化企業人制度を活用した「デジタル人材」を町に派遣しており、今回協定はDX推進でさらに連携を深めるもの。脱炭素関連では、バイオガスをプラントで発電した町の再生エネルギーをHBAが非化石証書として調達するなど幅広い分野で協力し、地域の活性化を図る。締結式は町役場で行われ、喜井

協定書に署名した（左から）喜井町長と白幡社長

井知巳町長と白幡社長が協定書にサインした。白幡社長は「町にはワークーションでも訪れ、社員も愛着がある。協力して新しいことに挑戦していきたい」と述べた。（小野寺俊之介）

R5年度 シカソンサミット参加企業の仲介
地域活性化起業人：総合的な空家対策推進



COMING SOON!



- そもそも鹿追町の目的として、**ワークーションから直接得られる効果（観光誘客、経済効果）を目的としていない。**
- インバウンドが回復基調にある中、いわゆる**観光対策にはつながらない**という思いは更に強くなった。
- ただし、**観光の閑散期対策**であれば、受入ホテル側のニーズとも合致する → 閑散期におけるワークーション受入推進
- **企業との関係構築が少しずつ進んでいる（ワークーションがなければ、なかった出会い・関係を創出している）**